

サイクリングで

菊川をPR



サイクリングで地域活性化

小笠高校3年生25人が取り組んだ研究テーマは、「菊川市をPRできるサイクリングイベントを企画せよ!」です。市が抱える人口減少問題の解決策を検討した結果、交流人口を増やすことに着目。サイクリングイベントは、市外の人が菊川市を訪れるきっかけとなりえるものであり、市内を自転車で巡ることで、食・歴史・自然などの魅力を体感できるものであることから、地域活性化につながると考えました。

高校生の視点を生かして

はじめに、生徒たちは、市が発行する冊子や観光パンフレット、インターネットなどを活用し、菊川市の魅力を体感できるスポット探しから始めました。

5月には実際にサイクリングイベントの企画・運営に関わる山崎清一さんと、塩田光



▲山崎さんにアドバイスをもらいながらコース作りを行う

孝さんを講師に招き、サイクリングの魅力やコース作りのヒントを学びました。講義の中で、高校生の視点を生かすことが魅力的なコース作りにつながるなど、アドバイスをを受け、個性あふれるサイクリングコースを考えていきました。

企画作りのヒントを学ぶ

9月からは2つのグループに分かれ、コース作りや広報ホームページ制作など役割を分担し、サイクリングイベントの企画作りを進めてきた生徒たち。10月には、市内でア



▲宇佐美さんの話に聞き入る

ウトドアイイベントを企画・運営する宇佐美竜一さんから、イベント企画のヒントやプロジェクトを共に進める仲間の大切さなどを学びました。宇佐美さんが企画し、11月に菊川運動公園で開催された「きくがわテント村2017」には、生徒たちもボランティアとして参加。運営の手伝いをする傍ら、自分たちの企画作りの参考とするためのアンケート調査も実施しました。

菊川の魅力を見

1月には、自分たちが考え



▲田園風景が広がる道を試走する生徒たち

たコースを試走。机上では分からないコースの問題点を把握するとともに、どこまでも広がる田園風景や富士山がきれいに見えるスポットなど、菊川の魅力を見直ししました。さまざまな学びや、講師からの助言、フィールドワークをとおして企画を完成させた生徒たち。プレゼンテーション大会では、2つのサイクリングイベントを提案しました。1班は、市内の寺院や公園などを巡りながら、おいしい食べ物も味わうことができるコース。2班は、子どもから大人まで楽しめるように、子どもはゲーム感覚で楽しめるコース、大人は菊川市の文化や自然、名産品を知ることができるコースと、高校生の視点から菊川市の魅力を体感できる企画を創り上げました。

SUPPORTER VOICE

市内に何があるかわからない生徒たちでしたが、徐々に菊川を学び、知識を得ていったと感じます。高校生らしい自由な発想でおもしろいコースができて良かったと思います。



サイクルランド
ちゃりんこ 代表
山崎 清一さん
(掛川市)

想像した以上のものが完成し、グループごとの個性が出た企画になったと感じます。この経験は、企画を創り上げた生徒たちにとって、今後の人生に生かされると思います。



コンセプト(株)
塩田 光孝さん
(掛川市)

最初は不安に感じていましたが、やるべきことが分かれば、高校生でも企画を創り上げることができることを実感しました。考えた企画をぜひ市で実施してほしいです。



(株)カーショップ
アイデア 社長
宇佐美 竜一さん
(潮海寺町)